

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	静岡県下における自主的な社会教育活動に見る包摂的教育に関する実践的研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	角替 弘規
	研究協力者	所属・職名	静岡大学・名誉教授	氏名	馬居 政幸
		所属・職名	静岡産業大学・教授	氏名	松永 由弥子
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	角替 弘規

講演題目
静岡県下における自主的な社会教育活動に見る包摂的教育に関する実践的研究
研究の目的、成果及び今後の展望 本研究の目的は、静岡県下で展開されている自主的な社会教育活動において、包摂的な教育のあり方がどのように行われているのかについて、それらの実践上の課題について検討することにある。 COVID-19 によるいわゆるコロナ禍が一段落し、コロナ以前に見られたグローバル化の流れが回復しつつある中であっても、社会的分断は様々な形で社会の中に露呈している。したがって、社会的分断の影響を受けた、あるいは受ける可能性がある人々に対する包摂的な支援のあり方も早急に検討する必要に迫られている。そうした中で大きな役割を果たしうるのが社会教育の諸活動であろう。持続可能な社会を目指すためにも、あるいは学校教育をさまざまな形で補う意味においても、今後社会教育が果たす役割は非常に大きい。そして、そうした社会教育の諸活動がより大きな役割を果たすためにも、社会教育の実践のあり方に注目した調査研究が必要とされる。 そこで本研究では、静岡県内における社会教育の諸活動を対象にフィールド・ワークを重ね、社会教育諸活動においてどのような包摂的な教育実践が見られるのか、そしてそこにどのような課題があるのかを洗い出し、その実践が実り多いものになるための条件を明らかにしようとするものである。 以上の問題意識のもと、本研究においては静岡県静岡市に本拠を置く NPO 法人教育開発 FUNCLUB が母体となって活動している「しずおか自主夜間教室」および「しみず自主夜間教室」の活動に着目し、実際に支援活動に参加しつつ、それぞれの「教室」の活動の特徴と課題について検討した。 学校外の学習支援の場には学校での学習から意図せず周縁化され排除された子どもが参加している。かれらが抱える困難事例はもはや目新しいものではないが、かと言って看過できるものではなく、深刻な社会経済的背景を抱えている者も少なくない。これらを踏まえて以下の二点を指摘したい。 一つにはこうした周縁化（排除化）された事例は、公教育制度から意図的に排除されたものではなく、むしろかれらに対する制度的な枠組みの欠如によって生み出されていることが、逆に問題の発展的解消に結び付かない原因となっている懸念があるという点である。より具体的には、体系的な日本語指導制度・方法の不在、カリキュラムの不在等である。 二つ目として、さらにこれらのことは、中央教育行政の側から現場（あるいは地方教育行政）に対して包摂的な対応として要請されており、そのことであたかも万全の対応が図られているかのように見られるものの、具体的な対応を求められる各教育現場においては、教職員のマンパワーの充当や具体的な包摂を実践に移す資源の手当ては不十分なままであり、言わば「丸投げ」されている懸念があるという点である。公教育の現場でさえそうした状況であるのを踏まえれば、社会教育においてはさらに事態は深刻である。今後より一層充実した包摂的教育の実践が望まれる。